

《担当者名》 坊垣暁之 田中真樹 遠藤輝夫 丸川活司 松尾淳司 高橋祐司

【概要】

各研究分野における研究手法を学ぶとともに、最新の臨床検査理論と高度で深い臨床研究や病態診断に関連した課題を発見し解決できる想像力と、研究成果を国際学会で発表できることを目的とする。

【学修目標】

- 1) 研究の立案ができる。
- 2) 研究計画を作成できる。
- 3) 研究計画を遂行する過程を説明できる。
- 4) 細胞機能評価法について説明できる。
- 5) 生体脂質成分分析法について説明できる。
- 6) 各種顕微鏡の使用法を説明できる。
- 7) 国際学会に参加し、英語で発表できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	細胞機能評価法1	・フローサイトメトリーの原理と応用	坊垣暁之
2	細胞機能評価法2	・細胞死の評価 ・T細胞の評価 ・B細胞の評価	坊垣暁之
3	脂質成分分析法	・ホモジニアスアッセイ ・LC-MS/MS	高橋祐司
4	ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 標本を用いた分子病理学的解析	・ immunohistochemistry (IHC) 法 ・ PCR法 ・ ISH (in situ hybridization) 法 ・ FISH (Fluorescence in situ hybridization) 法 ・ DISH (Dual Color in situ Hybridization) 法	丸川活司
5	感染現象の解析	・細胞応答の解析 ・相互作用の解析	松尾淳司
6	血液型抗原の解析	・フローサイトメトリー法 ・カラム凝集法 ・マイクロプレート法	遠藤輝夫
7	実践的な顕微鏡の使用法	・共焦点レーザー顕微鏡 ・蛍光顕微鏡 ・実体顕微鏡	田中真樹
8	国際学会	・英語でのスライド作成 ・英語による発表力を身につける	田中真樹

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 100%

【評価基準】

最新臨床検査理論について理解し、研究方法、各種疾患病態における機序について説明できる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【備考】

ライブ配信による授業では、Google Formを利用して授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。  
オンデマンド型授業では、Google Formを利用して学習課題の提示と質疑応答の機会を確保する。

**【学修の準備】**

次回の授業内容について、調べておくこと(120分)

復習は、配付資料を活用し学習を深めること(120分)

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

(DP1)臨床検査学研究を実践するための倫理観を身につけていること。

(DP2)臨床検査学の教育者・研究者として、深い学識を身につけていること。

(DP3)臨床検査学の高度な研究能力と教育的指導力を身につけていること。

(DP4)国内外の保健・医療や社会の動向を把握し、修得した能力を社会へと還元できる能力を身につけていること。

**【実務経験】**

坊垣暁之(医師)、田中真樹(歯科医師)、遠藤輝夫(臨床検査技師)、丸川活司(臨床検査技師)、高橋祐司(臨床検査技師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での実務経験を活かし、最新臨床検査研究法特講を講義する。